

市立

いちかわ

自然博物館だより

令和6年(2024年)

2-3月号

(通巻 210号)

2023年度

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！



自然博物館収蔵写真

モズ

モズのはやにえ、という言葉を知る子どもは少ないでしょう。畑や雑木林が減り、この里の鳥も珍しくなりました。

P1 ☀️ いきもの写真館
モズ

P2 / 3 ☀️ 外来生物に関してー6
市川市域の外来動物

P4 ☀️ センサーカメラとっておきをご紹介
ハクビシンの群れ

P5 ☀️ 長田谷津のとりたち
ツツドリ

P6 ☀️ くすのきのあるバス通りから
アロエの花のメジロ

P6 ☀️ 展示室 飼育生物の話題
ヒガシニホントカゲ

P7 ☀️ わたしの観察ノート
11～12月の記録

P8 ☀️ ご案内

博物館だよりはカラー版をホームページでご覧いただけます。



市川市域の外来動物

市川市域には多くの外来動物が生息しています。古くに住み着いたうちの一部はすっかり定着し、一方で、新しい外来動物も次々登場します。それらが今後、爆発的に増えるのか、じわじわ定着するのか、あるいは消えてしまうのか、予想するのはむずかしいことです。

増えている外来動物

増えている外来動物として、アライグマ、アカボシゴマダラ、カワリヌマエビ類があります。このうちアライグマは中型の哺乳類で、自然博物館が長田谷津に設置した自動撮影装置にはある程度の頻度で写ります。生態系への影響が大きく、全国的に計画的な防除が進められています。

アカボシゴマダラは昆虫のチョウ類です。春型は白く、夏型は黒白のまだら模様です。市川市域には在来種としてゴマダラチョウが生息していましたが、アカボシゴマダラが増えるのと呼応して姿を消してしまいました。メカニズムは不明ですが、在来種が影響を受けた典型的な事例と言えそうです。

カワリヌマエビ類は、水槽飼育に用いる淡水エビの数種の総称です。飼いきれなくなつて捨てられたものが数を増やしています。長田谷津では、在来種・ヌカエビの生息域にまで入り込みました。

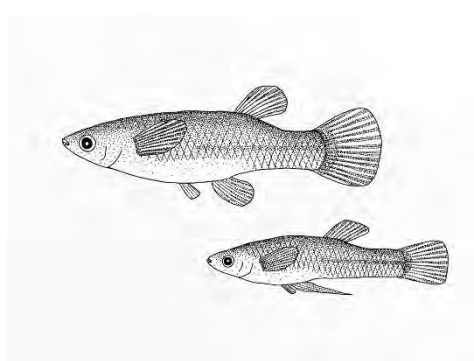


アカボシゴマダラ

すでに定着している外来動物

市川市域では、ハクビシン、ミシシッピアカミミガメ、ウシガエル、カダヤシ、アメリカザリガニが挙げられます。このうちカダヤシは北米大陸に生息する小魚で、一見すると大きさや形、色がメダカ（市川市域はミナミメダカという種類の分布域）にそっくりです。

カダヤシは、50年以上も前、まだ町に「どぶ」があつて蚊が湧いていたところに「ボウフラ退治」を期待して放流されました。やがて町が進化してボウフラさえ住めなくなると蚊も少なくなり、役目を終えたカダヤシは駆除すべき外来生物になりました。メダカが生息している場所に入ると、メダカの稚魚や幼魚を食べてしまうからです。ただ、すでにメダカが減っている市川市域においては、カダヤシは自然界の中で一定の位置を占めています。カダヤシを駆除したところで、メダカが戻ってくるわけでもありません。



カダヤシ
上…メス、下…オス

珍しい外来動物

ブラーミニメクラヘビという小さなヘビがいます。長さ20cm前後になるヘビで、一見するとミミズです。世界各地に生息していますが、原産地が不明です。どこかに原産地があって、そこから外来生物として広まったと考えられています。地面の石や倒木の下、土の中で暮らし、アリの幼虫や蛹、シロアリを食べていると言われていません。国内では温室で見つかることがあり、温室に植える植物や土といっしょに移動しているようです。

大町公園にある市川市観賞植物園の温室でも見つかっています。2019年に死骸が、2023年に生体が博物館に届きました。原産地不明で世界中に広がってしまえば、もはや「外来生物」という概念があてはまらないのかもしれませんが。オスが存在せず、メスだけで単為発生するという習性もあり、大変興味深い存在です。

ブラーミニメクラヘビを実際に目にした時のワクワク感は、昭和の時代の見慣れぬ外国の植物を見つけた時と同じでしょう。否定的な感じはありませんでした。



ブラーミニメクラヘビ

**ちゃんとした爬虫類のヘビです。
目も口もあり、鱗もあります。**

外来動物のとらえ方

大町公園の長田谷津には、国の絶滅危惧種としてスナヤツメとホトケドジョウが、千葉県絶滅危惧種としてニホンアカガエルが生息しています。首都圏の水辺では貴重なヌカエビやサワガニも生息しています。一方、スナヤツメが生息する水路にはアメリカザリガニが見られ、ホトケドジョウが育つ水辺ではカダヤシが群れています。ヌカエビが生息する池からは、夏になるとウシガエルの声が響きます。長田谷津では、絶滅危惧種も外来種も入り混じって暮らしているように見えます。たとえ外来種がいても、メダカの生息地にカダヤシが入ってメダカが食べつくされる、というような単純な図式ではなさそうです。

長田谷津では、スナヤツメもホトケドジョウも減少しています。ニホンアカガエルの卵塊数も大きく減っています。その原因は外来種ではなく、生息に適した水辺が埋まったことです。アメリカザリガニやカダヤシの影響は感じられません。また、サワガニは湧水の水路が埋まったことで逆に数を増やしました。

生態系は、生き物同士の複雑な関係性です。在来種が作ってきた関係性に新たに外来種が入り込めば、何らかの変化が生じます。ただ多くの場合、そのことで複雑な関係性の全体が崩壊するわけではありません。生じた変化を組み込んで、新たな関係性として安定する場合もあります。自然度が高い地域への外来生物の侵入は防がなくてはなりませんが、都市化が進んだ地域では、外来生物が組み込まれることを現実として受け入れざるを得ない側面があります。



センサーカメラ とっておきをご紹介

自然博物館では、長田谷津(大町公園自然観察園)の斜面林内にセンサーカメラ(自動撮影装置)を2か所、設置しています。1か所は人工的に作った水場、もう1か所は「けもの道」です。記録は動画ですが、ここでは静止画像を切り取って紹介していきます。



ハクビシンの群れ

ハクビシンは都市部でもありふれた動物で、目撃例も数多くあります。害獣駆除関連のwebサイトには「群れで行動する」といった記述が見られますが、長田谷津の「けもの道」で複数個体が同時に写ったのは、これが2例目です。多くの場合、単体の個体が写っています。

群れだから当然ですが、動画では、まとまって同じ方向に移動していました。写真には4頭写っていますが、この後、もう1頭ついてくるので実際は5頭の群れでした。

長田谷津のとりたち

自然博物館で行っている鳥類調査の記録から
一押しのとりにちをエピソードと共に紹介します。

ツツドリ

ツツドリは日本では主に低山から亜高山帯で繁殖するカッコウの仲間です。センダイムシクイやウグイスなどに托卵をすることが知られています。長田谷津では数は少ないですが、渡りの時期(5月頃と10月頃)に見ることができます。春の渡りでは「ポポッ ポポッ」という筒をならしたような特徴的なさえずりを聞くこともあります。

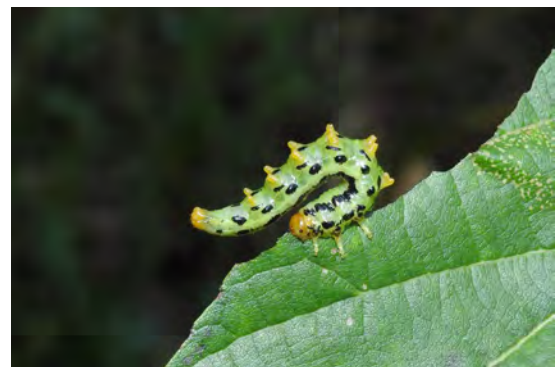


秋の渡りのツツドリ
(2022年10月14日 長田谷津)

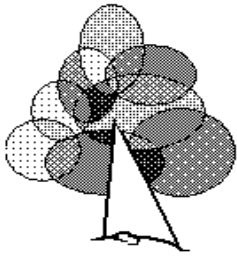
ツツドリが食べていたものは？

ツツドリは昆虫類、特にイモムシやケムシ(鱗翅目などの幼虫)を餌とすることがよく知られています。しかし、具体的にこの種類を食べていたという報告は多くはありません。様々な餌を食べる鳥類の食性は一概にいうのは難しく、こんな餌を食べていたという、具体例の積み重ねが生態の解明に繋がります。今回は一例として、長田谷津に飛来したツツドリが食べていた餌を紹介します。

観察したのは2022年10月14日と26日で、ハンノキの枝先にたくさんついている小さなイモムシを高頻度で採食していました。イモムシの種類を調べるためにツツドリが飛び去るのを待ち、すぐにその枝へ行くことにしました。そこには、「ヒラアシハバチ」というハバチの幼虫がいました。ヒラアシハバチはハンノキ(カバノキ科)などを食べるハバチで、幼虫が一枚の葉に数匹ついているような、ある程度まとまった集団をつくります。この生態がツツドリにとっては効率が良いようです。ヒラアシハバチを食べるツツドリの映像は博物館のホームページからオリジナル動画「2022年10月のスケッチ」から、動画でご覧ください。



ヒラアシハバチの幼虫 別日に撮影
(2022年11月16日 長田谷津)



アロエの花のメジロ

1月25日と26日は、真冬の寒さでした。高知県や桜島でも雪が降り、関東地方以外は大雪でした。我が家の庭で、久しぶりに、霜柱が立ちました。ロウバイ、サザンカ、コウバイ、アロエ、スイセンが咲いています。シラカバ、ミモザ、ハクモクレンはまだ蕾が堅そうです。

ヒイラギナンテンに小さい実がついていました。日向ではヒメツルソバ、ノボロギクの間、ノゲシの間が咲いていました。

ピラカンサの実を食べに、ヒヨドリが5、6羽来ていました。枝を移動したり、鳴いたり、あわただしい様子でした。

ご近所の人と立ち話をしていると、メジロが、サザンカの枝の茂みに来ました。



しばらくすると、アロエに移動し花の蜜を吸っているようでした。こちらが目的だったようです。長話の間中、違うアロエの花に移ったり、足と首を伸ばして隣の花の蜜を吸ったり、警戒心より甘い蜜が上なのでしょう。

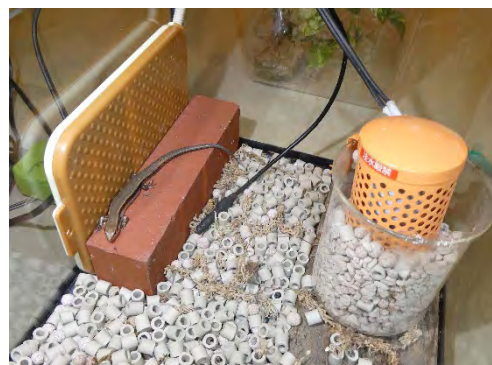
(M. M.)

No.53

展示室 飼育生物の話題

ヒガシニホントカゲ

トカゲ型の爬虫類は子どもたちに人気があります。ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、ニホンヤモリです。ただ、これらの飼育展示は案外むずかしい面があります。今シーズン、ヒガシニホントカゲの飼育展示はうまくいきました。ポイントは水槽内の温度管理と餌やりです。動物園の飼育員さんが園内で捕まえたものですが、最初は水槽の中でもあまり元気がありませんでした。これまでも同じことが多かったので、今回は試しに水槽内の温度を高めに見ました。60cm水槽にひよこ電球とパネルヒーターを併用していて、手を入れてもかなり暖かくなります。うまくいきました。餌は、捕まえた飼育員さんがミルワームで手なずけてくれました。さすがです。いまでは、温まったレンガの上で餌を待つようになりました。



わたしの 観察ノート

◆長田谷津より

- よく晴れて暖かな日、アブラゼミが鳴いていました(11/3)。アオジの声とアブラゼミの声の共存は、季節感がおかしくなってしまいます。
- もみじ山で、コウヤボウキを見つけました(11/13)。一輪だけ咲いていました。明るい林縁を好む植物なので、常緑樹林化が進む長田谷津では生きるチャンスに恵まれていない植物のひとつです。

以上 金子謙一(自然博物館)

- 斜面林からルリビタキの鳴き声が聞こえてきました(12/10)。激しく鳴いていたので注意深く見ると、ルリビタキが鳴いている場所の下をタヌキが歩いていました。
- もみじ山のスギにクイタダキがいました(12/26)。枝先でホバリングして餌を探していました。

以上 稲村優一(自然博物館)

- ヒヨドリがカラスウリの実をつついていました(12/28)。撮影した動画で見直すと、果肉ではなく種子を丸呑みしていました。何であれ、鳥に食べられているカラスウリの実は、はじめて見ました。
- 長田谷津の大町門側、アスレチック前には枯れたヨシが密生する一帯があります。園路を歩くと、ヨシ原のあちこちがガサゴゾとにぎやかです(12/30)。アオジをはじめとする小鳥たちがひそんでいます。人の視界を遮る密生したヨシはあまり肯定的に受け取ってもらえませんが、実際にその中を歩いて鳥に気づいてもらえれば、重要性もわかってもらえると思います。

◆大町(動物園内)より

- 動物園のスタッフと園内の木を見ていたら、アカガシの枝にメジロの巣がありました(12/2)。みんなが通る大きな階段の上です。こんなところに・・・というのは、メジロではよくあります。

以上 金子謙一

- 動物園のザリガニ釣り場は、餌場も水場もあり、鳥が集まるスポットです。この日は、シメが水浴びにきていました(12/10)。しばらくみているとヒヨドリもやってきて、一緒に水浴びをしていました。
- ザリガニ釣り場に、落ち葉の中の餌を探しているキジバトとシロハラがいました(12/19)。キジバトがいた場所にハイタカが突っ込んできて捕まえようとしてしました。キジバトはハイタカをかわして飛び去りました。
- ザリガニ釣り場のクヌギで、アカゲラが餌を探していました(12/21)。コンコンという木をつつく音がよく聞こえてきました。

以上 稲村優一

◆中山より

- 小学校のなかで、こどもたちと自然観察をしました(11/30)。校庭にあるムクロジが、たくさん実をつけていました。学校の中だと、車も通らないしみんなで安心して上を見上げられます。黄金色になったムクロジの実が青空に映えて、きれいでした。

金子謙一

冬らしい寒さの日が少なく、昼間の気温が10度を越えるような暖かい日が続きました。雨の日も少なかったです。

ホームページをご利用ください



自然博物館では、市川市域の自然に関する情報や解説を、ホームページ（webサイト）に掲載しています。展示室のパネルよりも、ホームページの方が情報量は格段に多いです。検索で「市川自然博物館」と入れていただき、下に示した画面が出てくれば、それが当館のホームページのトップです（検索1番目を開くと市川市役所のページに誘導されてしまう場合がありますので、その時は検索2番目を開いてみてください）。



ホームページの内容

- ・ご利用案内
- ・展示紹介、詳しい解説
- ・行事案内
- ・自然観察の記録、オリジナル動画
- ・博物館だより、出版物のご案内



＜行事のご案内＞

長田谷津は、
大町公園の自然観察園の
もともとの呼び名です。

○長田谷津散策会(申し込み不要・荒天中止)

季節の風景や動植物を楽しみながら、
ゆっくりと散策します。

集合：動物園券売所前 午前10時
解散：集合と同じ場所で 午前11時30分

○湿地の環境整備を

お手伝いしていただきませんか
(要問合せ・荒天中止)

学芸員と一緒に環境整備作業を行います。
たとえば……湿地の草刈、枯れ枝のかたづけ、
水路の整備、など

集合：観賞植物園 午前10時
解散：集合と同じ場所で 午前12時

初参加の方は

- ・・・お電話で博物館までお問合せください。
- 湿地の中に入る作業もありますので作業内容や身支度などについてご説明します。

	長田谷津散策会	湿地環境整備
4月	20日 土曜日	おやすみ
5月	19日 日曜日	26日 日曜日
6月	15日 土曜日	23日 日曜日
7月	14日 日曜日	おやすみ
8月	10日 土曜日	おやすみ
9月	15日 日曜日	29日 日曜日
10月	19日 土曜日	27日 日曜日
11月	17日 日曜日	24日 日曜日
12月	14日 土曜日	22日 日曜日
1月	19日 日曜日	26日 日曜日
2月	15日 土曜日	23日 日曜日
3月	16日 日曜日	23日 日曜日

第36巻 第6号 (通巻第210号)

令和6年2月1日 発行

編集・発行/市川市川自然博物館
(市川市教育委員会生涯学習部)

〒272-0801千葉県市川市大町284番地

☎047(339)0477